

特56

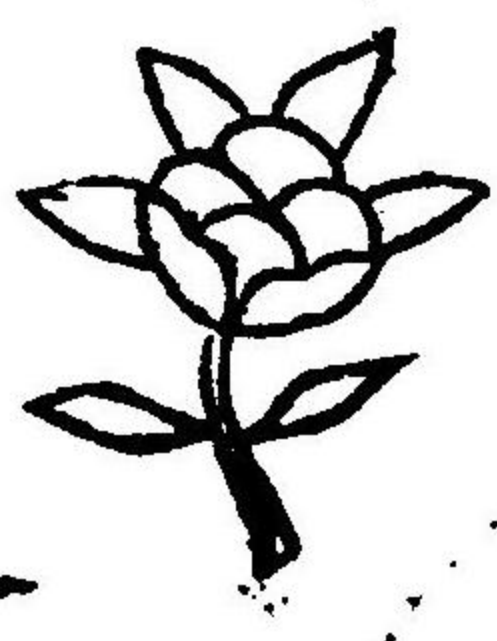
343

和字選擇集 二

○ 弥陀如来餘行をまとして往まの本願也

一 念ふもたゞ念佛をまとして往生の本願

一 念へるれ支



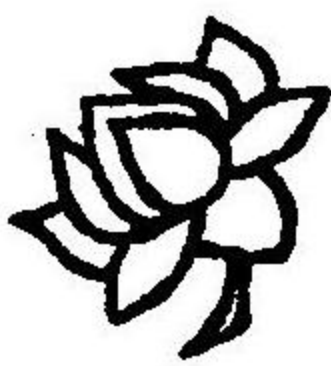


無量壽經の上よいく。設我佛を得たらん

よ。十方の衆生。至心よ信樂。我國よ生ぜん

極く乃至十念らん。若生ぜば正覺なり

觀念法門よりよ支は引くいく

我成佛せん。十方の衆生。我國よ生ぜん

願て我名字を稱す。さすとも十聲にいた
るも。我願力に乗じて。生ぜば。正覺を
取と。   

往生禮讚よ。たな。くよの文を引て。い。く。に
我成佛せん。よ。十方の衆生。我名号を稱す。
し。下十聲。よ。い。る。も。ん。若生。せ。ん。正覺。後
そ。の。れ。ほ。け。い。ま。現。よ。世。り。ま。し。て
成佛。な。り。當。よ。知。べ。し。本誓の重願じ

卷三

三

なり。く。ば。り。と。ば。衆生。稱念す。我。い。ん。ん。
次。往生。後。得。と。 

私。よ。い。ん。ん。切。の。諸佛。よ。な。り。く。惣。別
二種の願。あ。も。惣。と。し。四。私。折。言。願。こ。れ。た。り。
別。の。釋。迦。乃。五。百。乃。大。願。藥。師。の。十。二。乃
上。願。等。の。こ。の。こ。の。こ。の。四。十。八。願
い。ん。ん。稱。施。乃。別。願。を。り。問。て。い。ん。ん。稱。施
如。來。何。の。時。い。ん。ん。佛。乃。前。よ。れ。い

て。この願成たうし給へるや。答ていしく。壽
經よしく。けりけ阿難よけりたましく。
乃往過去久遠無量不可思議無央數
劫よ。鏡光如來世興出しく。無量乃衆
生海教化し度脱しく。これ得度す
めて。これより滅度なるとりたましく。次り
如來いよけり名けりて光遠といひま。乃次
を六處世となげり。がれりたの諸佛。五十三
佛なり

兼

兼

よ。いしく。すてり。たよ。ま。その時
次よ佛いよ。世自在王如來と名けり。時
よ國王ありけり。けり說法を聞く。とらる
よ。悦豫を懐て。尋て無上正眞の道意を
發し。國返すてまをす。けり行して沙門と
なる。号しく法藏といひ。高才勇哲なり
して世と超異なり。世自在王如來の所よ
い。乃。至。い。けり。い。世自在王佛す。れ。六

ら為よひろく。二百一十億の諸佛刹土乃
天人乃善惡國土。其兼妙を説て其心願
よ應じて。こくを現して。此は
あへたよ。時かの比丘はとけの所説
後聞嚴淨の國土。其れとくを觀見
して。無と殊勝乃願を起發と。そのよ
ろ寂靜よして。まろろ所着れ
一切の世間り。よくをよぶものなり。

卷三

三

五劫淨具して。莊嚴佛國清淨乃行
を思惟し。攝取と。阿難佛よまろは
く。このほびの國土の壽量いくとく
ぞや。佛乃のよはる。それ佛の壽命四十
二劫たり。時よ法藏比丘。二百一十億の諸
佛乃妙土清淨の行を攝取と。よ又大阿
弥陀經よ。よくそのやとけのら二百一
十億の佛國土の中。諸天人の善惡國土

の好醜こうしゆうは選擇せんたくし爲ためよ心中しんちゆう所欲しよよくの願ねがを
選擇せんたくし樓夷ろうい且羅佛じろぶつ在王佛ざいおうぶつとす世自せじ經きやうを
とてをとりて曇摩迦どんまか卷まきとす便すべその心こころは
よしとしてどれから天眼てんげんを得え徹視てつしして
しよくとす二百一十億にひゃくじゅうじゅうの諸佛しよぶつの
國土こくどの中ちゆうに諸天人しよてんじん人民じんみん乃すなはち善惡ぜんあく國土こくどの好醜こうしゆう
を見みてすれから心中しんちゆうの所願しよねがを選擇せんたくし
てどれからさの二十四願にじゅうよんねがの經きやうは結得けつとくと

卷三

と。平等覺經亦復びやくとれたがひに中ちゆうに選擇せんたくとらふと

れからこれ取捨しよとは義ぎたり二百一十億
の諸佛しよぶつの淨土じやうどの中ちゆうにたして人天じんてんは惡あくは
ととく。人天じんてんの善ぜんをことり國土こくどは醜しゆうを以もつ
て國土こくど乃すなはち好こうは也なり。大阿耨陀經だいあうだきやう乃すなはち
んんちやくは義ぎかゝるごとく。雙卷經しやうまききやうのよ
うは。よこ選擇せんたくは義ぎありて二百一十
億ひゃくじゅうじゅうの諸佛しよぶつは妙土めうど。清淨じやうじやうの行ぎやうを攝取しやくしよと

くるん我たなり。選擇と攝取とをせしむ
しんあからしくもそのころにれたれど
かまじぶられらる不浄淨の行はすて清
淨の行をせらまじり。上れ天人の善惡國土乃
兼妙。その義もくはつたり。我よあどく
て知通。そ我四十八願よ約して一往をの
く選擇攝取の義を論でん。第一よ
無三惡趣れ願どく六親見とる所の二百

卷三

五十一

十億の土乃中よたひてあんん三惡趣
あんの國土ありあんの三惡趣たんの國
土ありすれらその三惡趣あり兼惡の國土
は撰捨してうれ三惡趣たも善妙乃
國土は選取す。あるうゆへよ選擇せり
あり。第二よ不更惡趣れ願とらぬら諸佛
乃土の中よあひてあんの國中よ三惡
道ありとらぬら。その國の人天壽終れ後と

の國より去る。すなはち三惡趣一更の土あり。
あつて惡道よりかくらばるの土あり。すなはち
らそれ惡道よりくる。兼惡れ國土は選捨
してそれあつて。さうはかくらばる。善妙
れ國土は撰取すがら。ゆへは選擇せらる。
なり。第三は悉皆金色れ類といふ。乃
諸佛の土れ中におひて。或は土の中より。
黄白二類の人天あり。乃國土あり。あつて

善妙

兼惡

純黄金色れ國土あり。すなはち黄白二類
れ兼惡れ國土は選捨して。黄金一色の
善妙の國土を撰取すがら。ゆへは選擇
せらる。第四は無有好醜れ類といふ。
の諸佛の土の中におひて。あつて。さう
天乃形色好醜不同なるれ國土あり。あつて。
ひの形色一類として。好醜あり。さうの
國土あり。すなはち好醜不同なる。兼惡の

國土は選捨して。好醜あることなし。善
妙の國土を採取と。かるべし。よ。選擇
とりふたり。乃至第十の念佛往生の願
と。よ。の諸佛れの中よ。たいて。あるん
い布施と。して。往生の行とするの土あり。或
持戒と。して。往生の行とするの土あり。或
忍辱と。して。往生の行とするの土あり。或
精進と。して。往生の行とするの土あり。或

善

七業

禪定と。して。往生の行とするの土あり。或
般若と。して。往生の行とするの土あり。
身一義と信ま 往生の行とするの土あり。
ほきこれなり 往生の行とするの土あり。
或の菩提と。して。往生の行とするの土あり。
或の六念と。して。往生の行とするの土あり。
或の持經と。して。往生の行とするの土あり。
或の持咒と。して。往生の行とするの土あり。
或の起立塔像。飯食沙門。をよ。の孝養
父母奉事師長等の種々の行をとして。

まのへく往まけ行とするの國土等あり或
いそぐそまけ國のぼけの名を稱して
往まの行とするれまあかぐのへく一行を
えて一佛土よ配するのまをまけ一往の
義かりの再往れを論せばそれ義不定
れありあひく一佛土の中よ多行法をして
往まけ行とするものまあり或ハ多佛土の中
よ一行をりて通して往まけ行とするもの

論

論

とありかくへく往生の行種く不同なり
具よのへく法すれいらいま前の布施
持戒乃至孝養父母等の諸行を選擇
して專佛号を稱と選取とするの法かり
らんちるくといふまのまの五願よ約
して略して選擇と論するのそれ義く
のまの自餘の諸願これよ準へくまの
あり同ていふまのまの諸願に約するよ

兼惡法そ選捨せんし。く。善妙ぜんをを選取せんと。く。し。
その理り然ぜん處じょべ。何ながゆへと。第十八願じゅうはちがん一切
の諸行しよぎやう法ぽう選捨せんし。だ。ひ。く。よ。念佛ねんぶつのの
行ぎやうをを選取せんし。く。往生おんじやうの本願ほんがんと。く。も。や。各
てい。く。聖意せいぎ測そくめ。か。し。輒たんにく。解げと。も。く。せ。
あ。し。ん。け。き。ら。と。ら。く。も。く。ま。試しつよ。二義にぎを
と。て。い。ま。し。後解ごげせん。し。に。勝劣しょうりやくの義ぎ。二。よ。
難易なんいの義ぎなり。と。く。下り。よ。勝劣しょうりやくと。い。念佛ねんぶつ

卷四

九

は。こ。れ。勝しょうれ。餘行よぎやうの。こ。れ。劣じやくも。く。り。所以ゆゑ何なにと
や。れ。ん。名號なごうい。ま。し。萬德ばんとくの歸きと。も。所ところれ。れ。
む。た。なり。き。う。れ。ん。す。れ。ら。称しょう陀だ一佛いつぶつなり。
所有ありゆ四智しぢ三身さんじん十力じゆりき四無畏しむゐ等とうの。二。切きれ。内ない
證しょうの功徳こうとく相好さうこう光明くわうみやう說法せっぽう利生りじやう等とうの。二。切き
の外げ用ようの功徳こうとくと。れ。し。く。也。阿弥陀佛あみだぶつの
名号なごう乃なり中ちゆうよ。攝在しやくざいと。か。法ぽうの。ゆへ。よ。名号なごうれ
く。ご。く。も。く。も。す。ぐ。れ。ら。と。す。餘行よぎやうを

あつてはなをく一隅は海をる。うつたを
て方きことたよく世間の屋舎れ名字乃中
に棟梁椽柱等れ一切乃家具紙掃と
まじらも棟梁等れこの名字れ中よ一切
を攝すといふはば家づくし。れをを
てまじら。あつてれいち佛の名字れ
くまじら。餘の一切乃くまじらよまじらも。
かまじらよ劣をすく勝をすくまじら

卷六

十集

本願と一法ふ次よ難易の義は
念佛の修し易諸行の修し難しとれ
ゆへに往生礼讚よいく問ていくたん
がゆへに觀をまじらめ直まじら名字
を稱まじらびるはよいくまじら合てい
まじらよまじら衆生はらまじら境細
廉なるにまじら識あまじらまじら
びて觀成就しまじら。まじらまじら大聖

悲憐して直す。多くきつて、名字を稱
す。一切の善業をのりて、利益ある
に相續して即生。又往生要集より
問ていふ。一切の善業をのりて、利益ある
て、多くきつて、往生を得。なんのゆへに、念
佛の二門をすじふや。答ふ。いふ。念佛を
すじふ事。是餘の種々の妙行を遮せん
ことあり。ゆへに、凡そ男女貴賤、行住

卷三

十一

坐臥、或簡便時、處諸縁を論じ、これ
を修するは難く、乃至臨終、往生を
願求する。それ便宜を得るとし、念佛よき
は、上か、あつて、ゆへに、知ぬ。念佛のよきと、まが
ゆへに、一切の通じ。諸行のいふ、まがゆへに
諸機よ、通じ。志の、いふ、た、い、ち、一切衆生
をして、平等に往生せしめん。が、た、め、に、難
す。易は、ら、り、て、ま、が、て、本願と、し、

も〜それ造像起塔後もて本願と一
路すれいら貧窮困乏れ類いさ見え
て往生乃望後絶ん。さるる富貴乃
もの少く貧賤をいさ見さる多し。
も〜智慧高才をさて本願と一さ
ま〜さなら愚鈍下智れものばらあ
て往生れれを絶し。然るも智慧あり
ものすくなく愚癡なるものいさ見さる

一

一

おほ〜も〜多聞多見をさて本願と
一強も〜とれいら少聞少見のさるが
あはれいさく往生れれをさる人さる
も〜多聞乃をいさなく少聞のさ
れいさあつたなり〜も〜持戒持律をさ
て本願と一たまらずれいら破戒無戒の
人いさあつて往生の望を絶ん。然るる
持戒のさるなく破戒れものいさ

も多し。自餘乃諸行に於て準じく
たゞし。もたけよきもへし。上の諸行等
して本願とて終つて。れいら往生を得
るものいすたなく。往生せむるをれいれ
んだおほく人。たれいれら。弥陀如来
法藏比丘のじう。平等に慈悲よまよほ
とて。あまのひや。一切を攝めんがまあよ。
造像起塔等。諸行は。して。往生の本

願と志。終つて。も。誓名念佛の一行をこ
て。その本願とて。終つて。か。家。が。ゆ。へ。り
法照禪師の五會法事讚よ。い。く。ま。の
佛因中。私誓。い。ま。名。を。ま。う。て。我。は
念。て。て。迎。来。で。ん。と。貧。窮。と。富。貴。と
貧。富。の。下。智。と。高。才。と。を。え。ん。く。ら。び。多。聞
と。持。淨。戒。と。を。簡。び。破。戒。と。罪。根。の。ぬ。り
ま。と。後。え。ん。と。但。回。心。し。て。お。ち。く。念

佛せしめいづく尾^ミ磔^シにして變^カじて金
とす。上^上問ていく。一切の菩薩の
願^願成^成をいへる。あるはすてよ成就せ
ぬあり。いさ。成就せぬ家あり。い
法藏がさの四十八願。すてよ成就
したるよやせん。將^將いよ。成就し給^給は
やせん。答^答ていく。法藏の誓^誓願^願一^一より
成就し。いさ。いんとたれ。極樂界

十善

十善

中すてよ三惡趣^{三惡趣}の。法^法はり。さる。法^法。
いさ。それいら無三惡趣^{無三惡趣}乃願^{乃願}を成就せ
る。いさ。法^法にをさる。志^志法^法し。を得
たる。すれいら願^願成就^{成就}の文^文に。さる。地獄^{地獄}餓
鬼^鬼畜生^{畜生}諸難^{諸難}の趣^趣なり。いさ。これなり
又^又。れ國^國の人^人天^天。壽終^{壽終}の後^後。三惡趣^{三惡趣}り
かへることなり。いさ。さる。いさ。これ
すれいら不更^{不更}惡趣^{惡趣}乃願^{乃願}成^成就^就せる

し後何をせしめてしるしと成えたるす
れいら願成就れ文よ。又この菩薩乃至成
佛まで。惡趣にいらばといふに我なり。
又さくらくの人天一人して三十二相
成就せしことありしなり。よはらよ志
るべし。さすれいら具三十二相れ願を
成就せしし後何をせしと成えし得
たり。すれいら願成就の文よ。此國よりま

す。すれいら具三十二相を具
せしと成えし。我なり。くれしと成
無三惡趣の願よ。をら得三法忍れ願
よ。すれいらこの誓願。すれしと成
成就せし。第十八念佛往生れ願。長ひを
し成就し。強うぞんや。すれいら
念佛の人。これよはらよ往生すべし。何をせ
てしるしと成えし。得しと成えし。念佛往生の

願成就の文よありゆる衆生。その名号を
聞て信心歡喜し。乃至一念。至心よ廻向
し。この國に生ぜん。と願す。此れど如何ん
往生得く。不退轉に住るといふ。此
れり。九四十八願。浄土を莊嚴と。華池寶
閣。願力よあり候と。いふこと。如何んぞ
その中よ。たして。いづる念佛往生。此願を
疑感す。はまや。さうのまな。此。この願

れをりよ。ま。一。志から。信。正覺をと。こら
ト。とい。つ。ま。に。阿彌陀佛。成佛—
な。い。く。り。い。ま。に。お。ひ。ま。十。劫
たり。成佛のら。い。す。で。よ。を。て。成就。なり。
當よ。ま。る。る。一。これ願。む。な。一。を。設
く。愈。う。す。か。る。が。ゆ。い。よ。善。導。の。い。ま。い。く。
あ。れ。や。け。い。よ。現。よ。世。に。ま。い。く。て。成佛
—。ま。あ。ま。ま。は。り。ま。い。く。一。本。誓

れ重願むの^り。後。衆生稱念よれハ
多^クの^り往生を得。已問てい^く。經より十
念といひ。釋よ十聲といふ。念聲の義い
ん。答てい^く。念聲よ一たり。何後を
て。志はよ後得た。觀經の下品下生よ
い^く。聲を^して。絶^たら^ず。志^は。十念は
具足して。南無阿弥陀佛と稱^す。佛
名^は稱する。がゆへよ。念これ中よりいひ

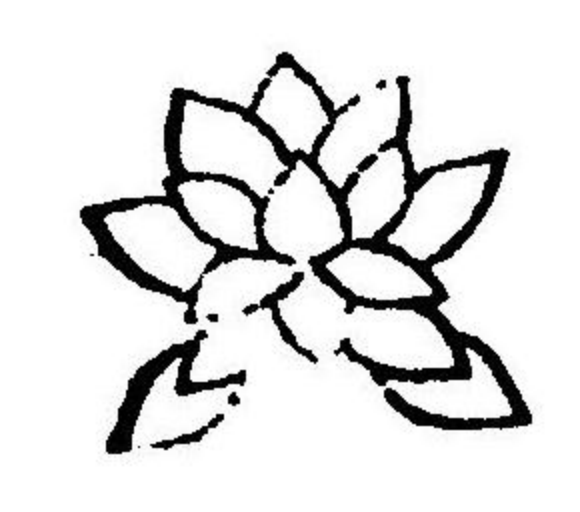
て。八十億劫の生死の罪^は除^けと。いまこれ
文よるに。聲^は。是念。念^は。是聲^は。
し。その^り。海^は。あき^らげ^し。志^は。の^り。
ど。大集^は。月藏^は。經^は。い^く。大念^は。大佛^は。
見。小念^は。小佛^をと^ると。感^は。師^は。釋^す。
と。大念^は。大聲^の。念佛^は。小念^は。小聲^の。
念佛^は。なりと。か^る。ゆへ^は。知^ぬ。念^は。よ^ら。
是^は。唱^す。向^は。日^は。經^は。よ^ら。至^す。といひ。釋^は。よ^ら。

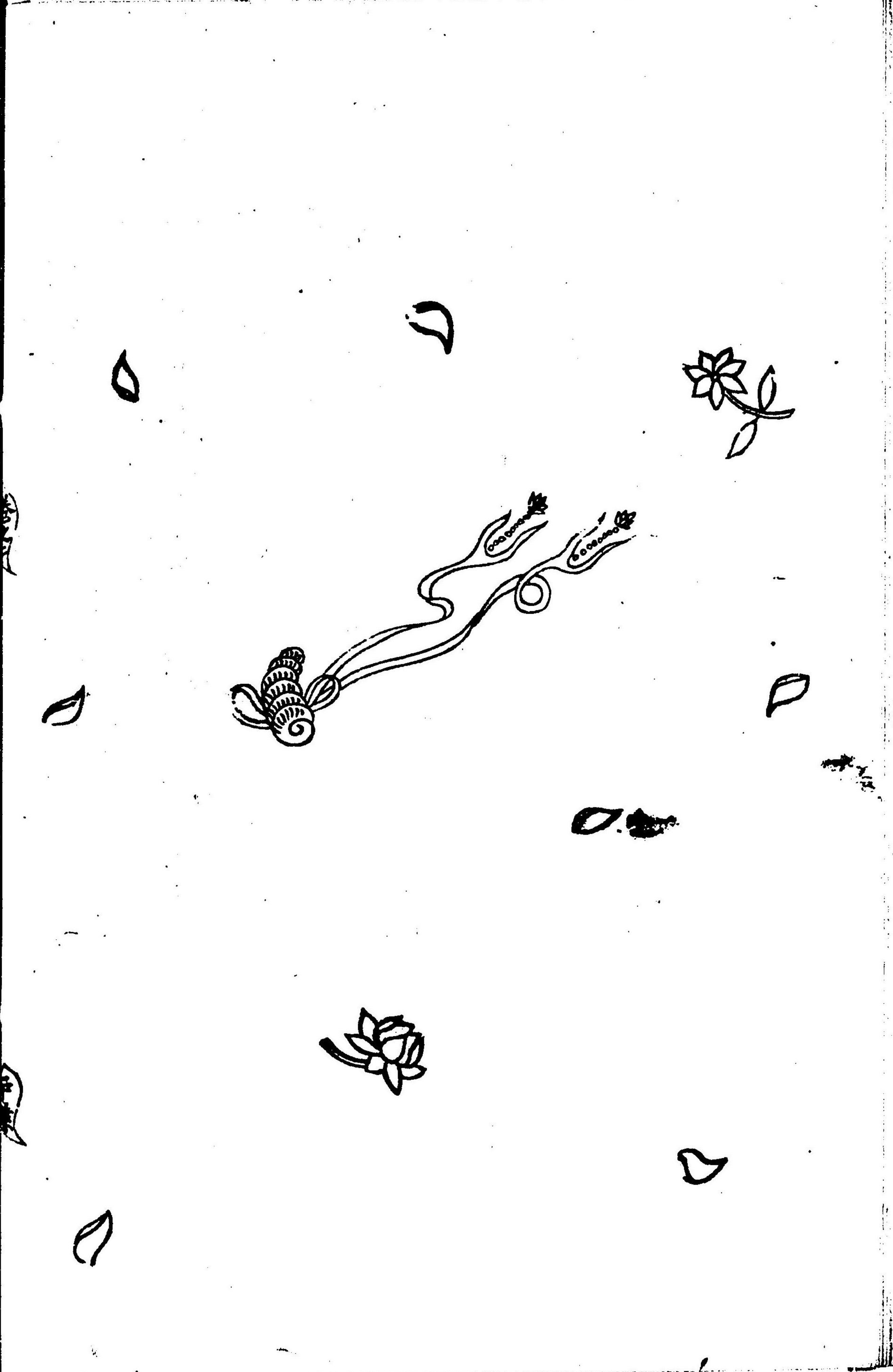
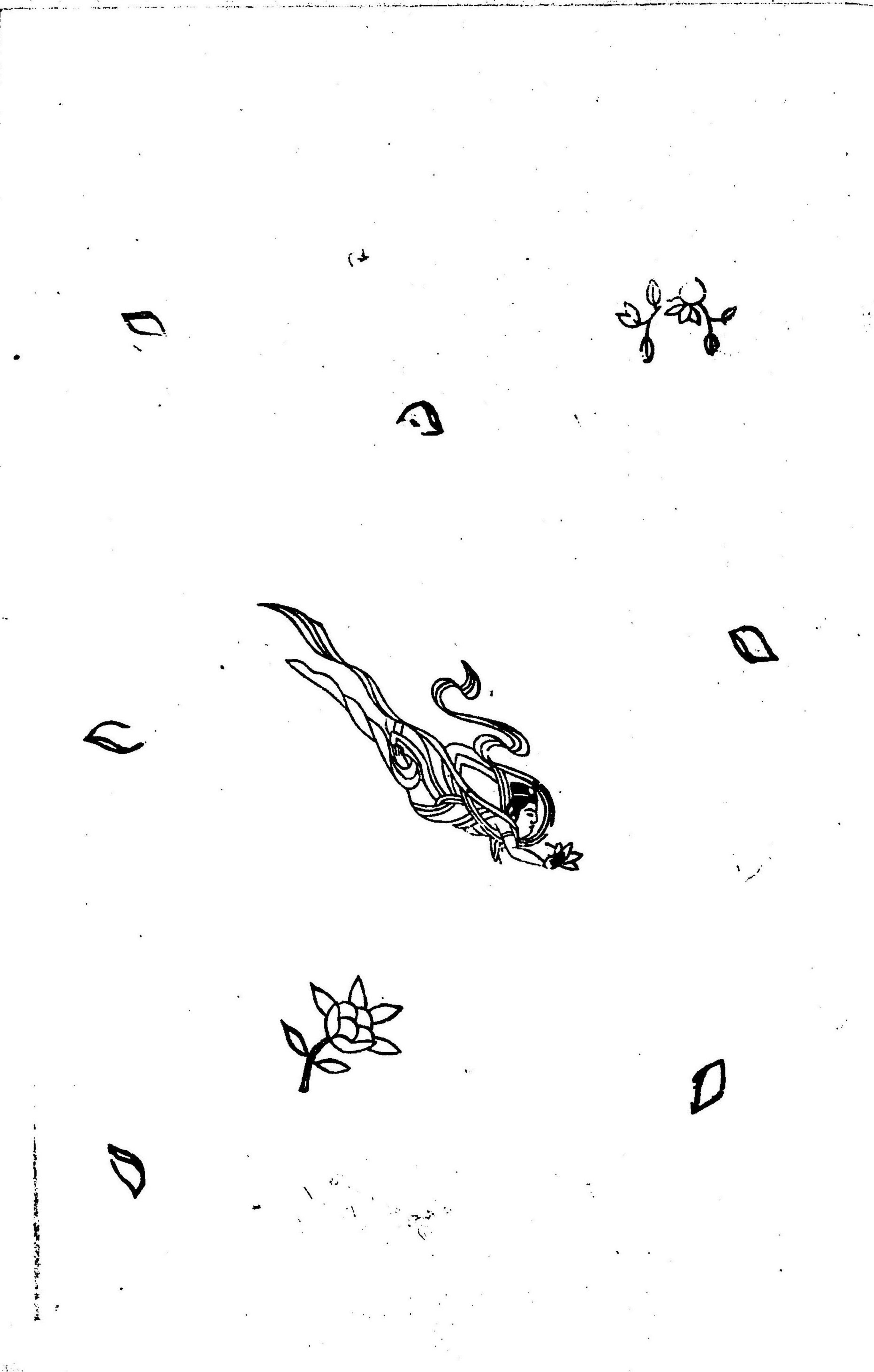
至といふ。それこそ後いかん。答曰。乃至と下
至と。そのころ是い一なり。經よない。と
いへる。多たより少すくよびふの言ことばなり。多た
は上盡じん一形かたちなり。少すくは下至十聲一聲
等らなり。釋しやくよ下至といへる。下といへ上う對たい
すのころふなり。下といへ下至十聲一聲
等らなり。上といへ上盡一形なり。上下相對
乃文。それ例れいこそ多た。宿命通しゆくめいつうの願ねんよ

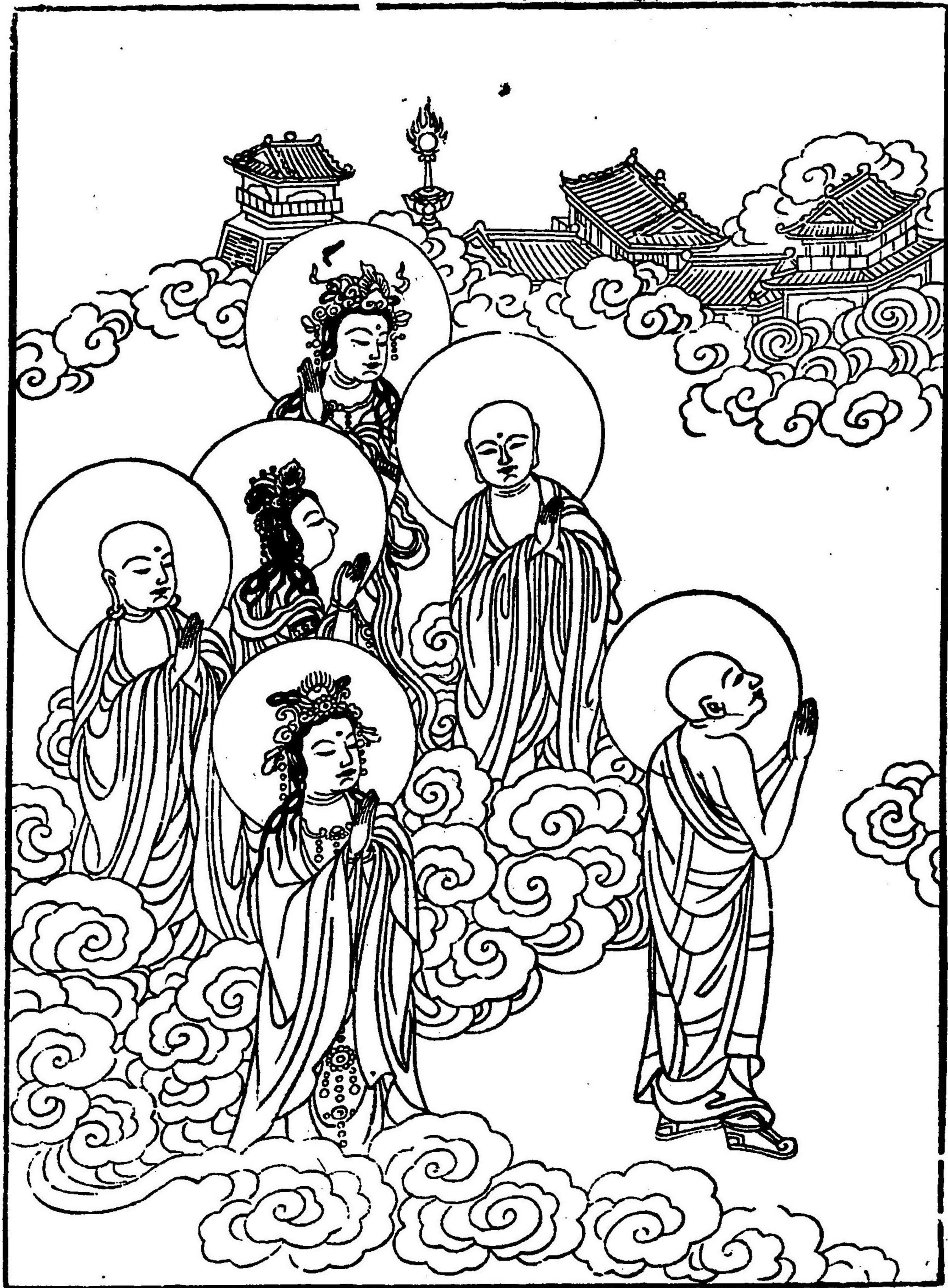
いへる。我佛を得えらん。國中こくちゆうに
人天。宿命は識ちど下百千億那由他諸劫たかひやくせんいふねんしゆたしよしよ
此事このことをさくしる。正覺しやうかくをせ
る。ごうのごう五神通ごしんつうをよび光明壽くわうめいじゆう
命等めいとうの願ねん中ちゆうよ。こり下至の言ことばを
ま。これすれ。いへる。多たより少すくよびふ。下をせ
て上に對たいするの義ぎなり。上の八種はつしゆの願ねんよ
例れいとる。いへる。これ願ねんすれ。いへる。

是下至なり。され故よいま善導は引釋と
家野の下至は言そのころ相違は決たじ
善導と諸師とそれころ然れなり。諸
師は釋は別して十念往生の願といひ善
導はひとり惣として念佛往生の願といへり。
諸師は別して十念往生の願といへり。それ
ころ然とならば周かぬ。然る所以は、
形をさす下一念をさすつゆいふ善導

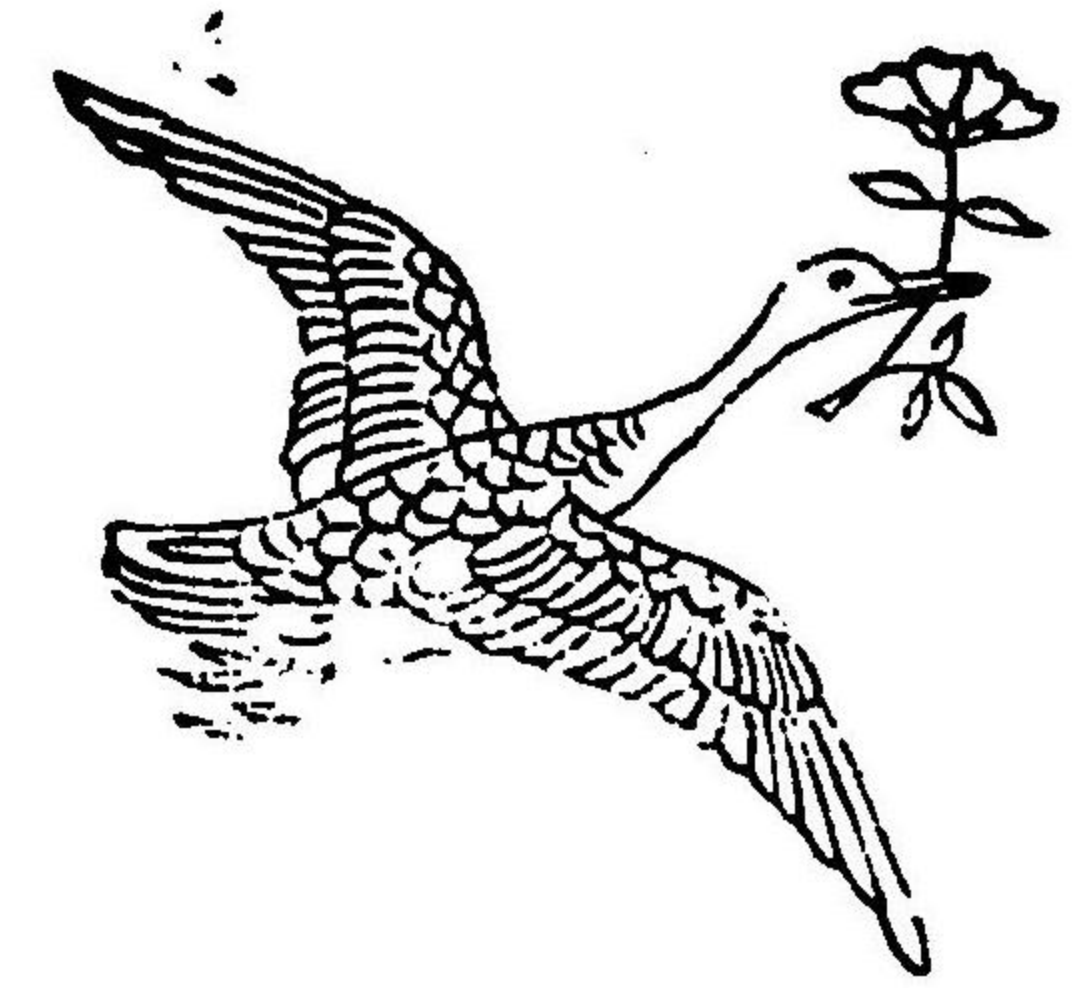
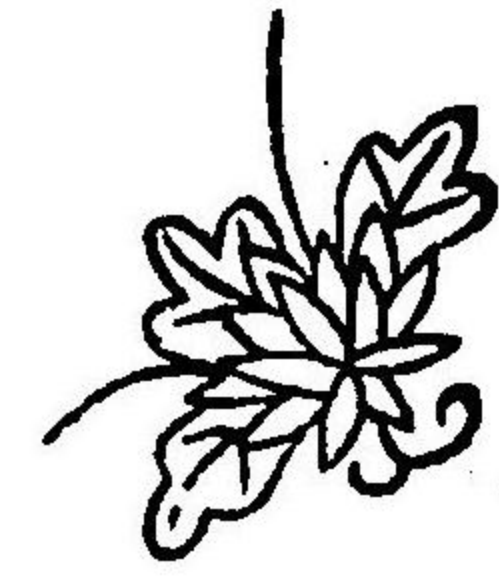
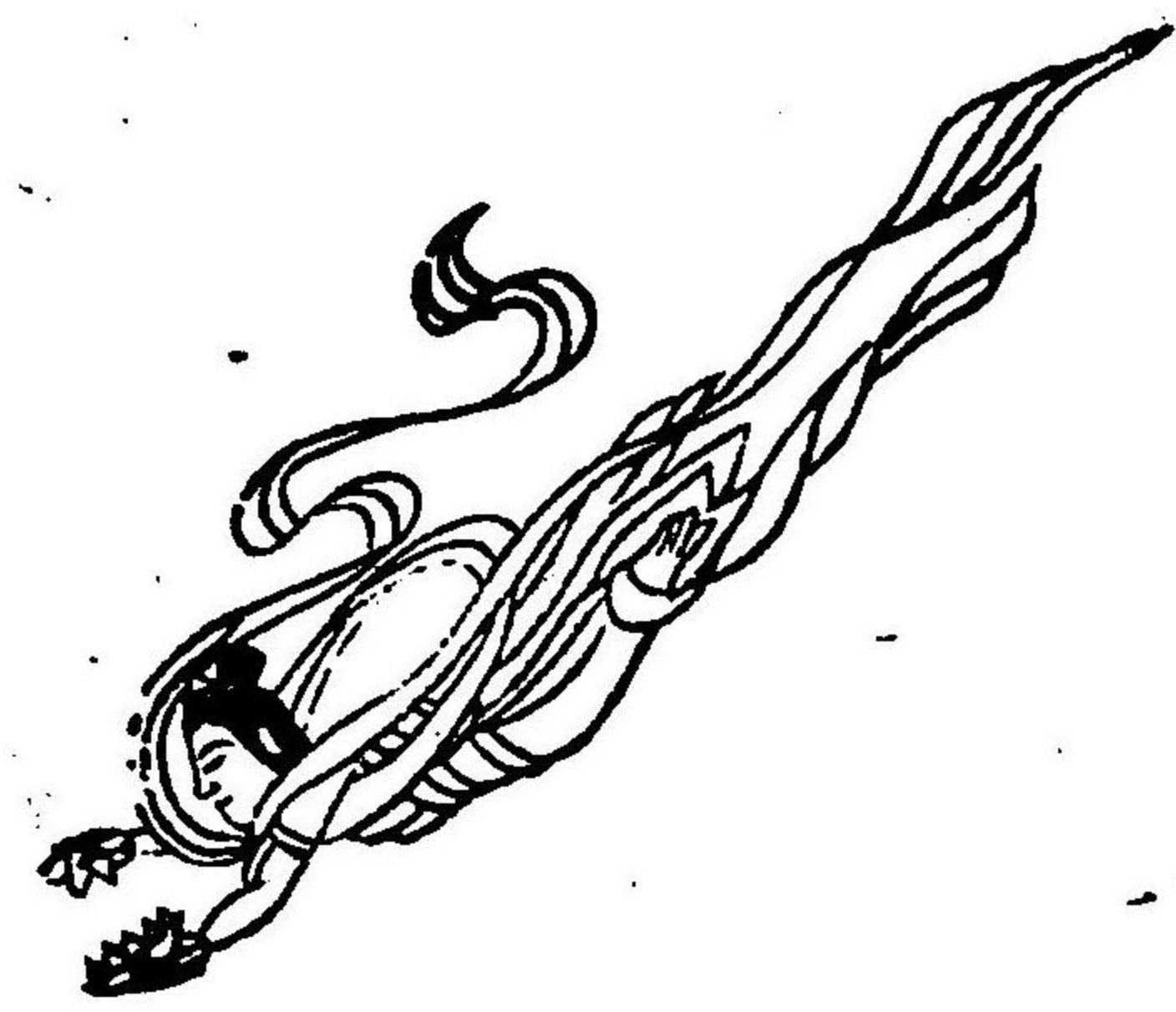
れ惣として念佛往生の願といへり。其ころ
然る所以は、上一形とさ
す下一念をさすつゆいふあり。〇







○三輩念佛往生乃至
 無量壽經の下にやうく。佛阿難よはるたよふ
 く。十方世界に諸天人民をまじ至心ありて
 らの國よ生ぜんを願ふるに。たて三輩ありて
 け上輩といふ家やとして欲返棄て。まづも沙
 門とやう。菩提心返とて。一向よまじら無
 量壽佛を念ふ。まじらくの功德を修
 て。け國よ生ぜんを願ふるに。たれ乃衆生



法華

法華

壽終じゆうしゆうのこまにのぞきて無量壽佛むりやうじゆうぶつもろく
の大家だいけともたその人乃前まへに現げんに於おけ
れんらこのほにちよきぶひんかの國くにに往生じやうじやう
便まじ七寶しちほうの華はなれ中にたいしく自然じぜんに化生けけ
不退轉ふたいせんの位ゐと智惠ちゑ勇猛ゆうまうの神通しんとう自在じざい
とこいれゆへり阿難あなんを衆生しゆじやうありて今世こんぜ
おしく無量壽佛むりやうじゆうぶつを見みたてまつると欲ほせ
ば無上菩提むじやうぼだいの心こころを修しゆして功德くふとくを修しゆ行ぎやうして

この國くにに生なぜん願ねんとぐべしと。 ○ 花

佛阿難ぶつあなんよりつとまなましくその中ちゆうに輩たいといハ十方
世界せかいの諸天人しよてんじん民たみを至いた心こころありて彼國かのくにに生な
ぜん願ねんするよ行ぎやうして沙門しゃもんとなりたり
功德くふとくを修しゆすることあるもつとこいへとも當あたに無
上菩提むじやうぼだいの心こころを修しゆして一向いこうに專せん無量壽佛むりやうじゆうぶつ
を念ねんし多おほく善ぜんを修しゆして齊戒さいがいを奉持ぶうぢ
塔像たつざうに起た立たし沙門しゃもんより飯食はんじきに繒かづを

燈をいかり。たをちらり。香をたまたま。いま
成きて廻向して彼國にませんと願ふべし。
その人ぞりよのぞきて無量壽佛その身を
化現して。光明相好。はぶらに真佛のごとく。
まゆくの大衆をま。まそれ人の前。現じぬ。
すれぞら化佛にま。びひてそれ國小往生して。
不退轉。住。切徳智恵。成て上輩の者のじ。
佛阿難。り。はげき。あ。く。下北東

智し。十方世界乃諸天人。民。う。ま。至心あ
ま。く。乃。國。り。ま。せん。を。欲。せん。り。假使
ま。く。の。切徳。あ。す。し。あ。い。い。ま。ら。の。當
に無上菩提の心。あ。を。く。一向。よ。ま。を。せ。り。
り。て。あ。い。十念無量壽佛。念。して。その
國にま。せんと願。ふ。り。深法。は。聞。歡喜
信樂。して。疑。惑。を。ま。生。ま。は。び。あ。い。一。念。の。乃
不。び。念。一。至誠心。を。ま。て。それ國。よ。ま

とんと願どきん此人をいかにのぞきて夢れ
てしつみ佛をえんもてまつりてまゝの往生を
得。功德智慧次ぐ中輩の者のごとくと。口
私よ問くいしく上輩の文れ中よ念佛の
外よまゝの捨家棄欲等の餘行あり中
輩れ文の中に亦起立塔像等れ餘行
あり下輩れ文の中よまゝの菩提心等の
餘行あり。びんがゆへそまゝの念佛往生を

りふや答ていしく善導和尚の觀念法門
よいしく又これ經の下卷れより先よい
しくほとけ説たましく一切衆生の根性
不同よして上中下ありそれ根性より
さしづいしくほとけられそりてまゝを
無量壽佛れ名を念ぜしびそれ人いのみ
をうんを欲すことまじかへけと聖衆と
まげかゝ来て迎接してししくも往生

を得たり。此釋の如く。三輩とも念佛往生といふなり。問てい
く。此釋いままの前難を遮せぬ。あんぞ
餘行はとて。たゞ念佛とりふや。答て
いづく。此よ三の意あり。一よ諸行を廢
して念佛よ歸せんがため。二よ諸行
を廢して念佛を助成せんがため。
三よ諸行をさぐ。三より念佛諸行

論

た

の二門は約して。三品は立んがた
めんがため。諸行をさぐ。三より念佛諸行
を廢して念佛よ歸せんがため。三よ諸行
諸行はとて。たゞ念佛とりふや。答て
いづく。此よ三の意あり。一よ諸行を廢
して念佛よ歸せんがため。二よ諸行
を廢して念佛を助成せんがため。
三よ諸行をさぐ。三より念佛諸行

後よたきしんてきこらもいんを解せば上
等の中に菩提心をもれ餘行をことし
いんごんごとの本願よ望まこら言たる衆生ど
しと専称随の名後稱ゆしじるよあり
まらに本願の中よいんごらり餘行ゆ
三輩ごもに上乃本願よまらうほぐゆ
一向専念無量壽佛と云たらり一向こい
向三向等よ對とらゆ言たらり例でいかの五

等よ三種の寺あらうとまよこ一向大
乗寺ゆれ寺の中よこ小乗及學す
たよこ一向小乗寺此寺れ中よこ大
乗及學すたらうとたよこ三よこ大小兼行寺
この寺のたよこ大小兼學すと教り兼
行寺ゆらゆ當よ知へ大小れ兩寺よこ向
の言あゆ悪行の寺よこ一向れ言たらうは
これ經の中の一向のまこ然たらうと念佛

其外よまほし餘行をまほしくいふは、いかにいふに、向ふ
あはれに、まほしき、まほしき、準せむ。善行といふは、
まほしき、まほしき、餘行を兼ばらむ。いかにいふに、
けり。まほしき、まほしき、餘行をまほしくいふは、
まほしき、まほしき、明りに知ぬ諸行は、廢
し、まほしき、まほしき、念佛といふは、
まほしき、まほしき、念佛を助成する念なり。この

諸行をまほしくいふは、いかにいふに、
同類の善根は、もて念佛は助成し。こよ
い異類の善根は、もて念佛は助成と
まほしき、まほしき、同類の助成といふ善導和尚の觀
經の疏の中に、五種は助行を擧ぐ、念佛
は、行を助成と是なり。具よ、い上の正雜二
行の中に、まほしき、まほしき、異類の助成
まほしき、まほしき、まほしき、向專

念無量壽佛といふは正行なり。是は所助
なり。捨家棄欲而作沙門發菩提心等と
いふは助行なり。よしは能助なり。いづく
往生の業よ。念佛を本こととがむづゆへよ
一向よ念佛を修せんがために。家法として
欲を止めて沙門となり。又菩提心はまはは
等なり。然中在家發心等といふは初出を
よし初發をさうと。念佛といふは長時不退の

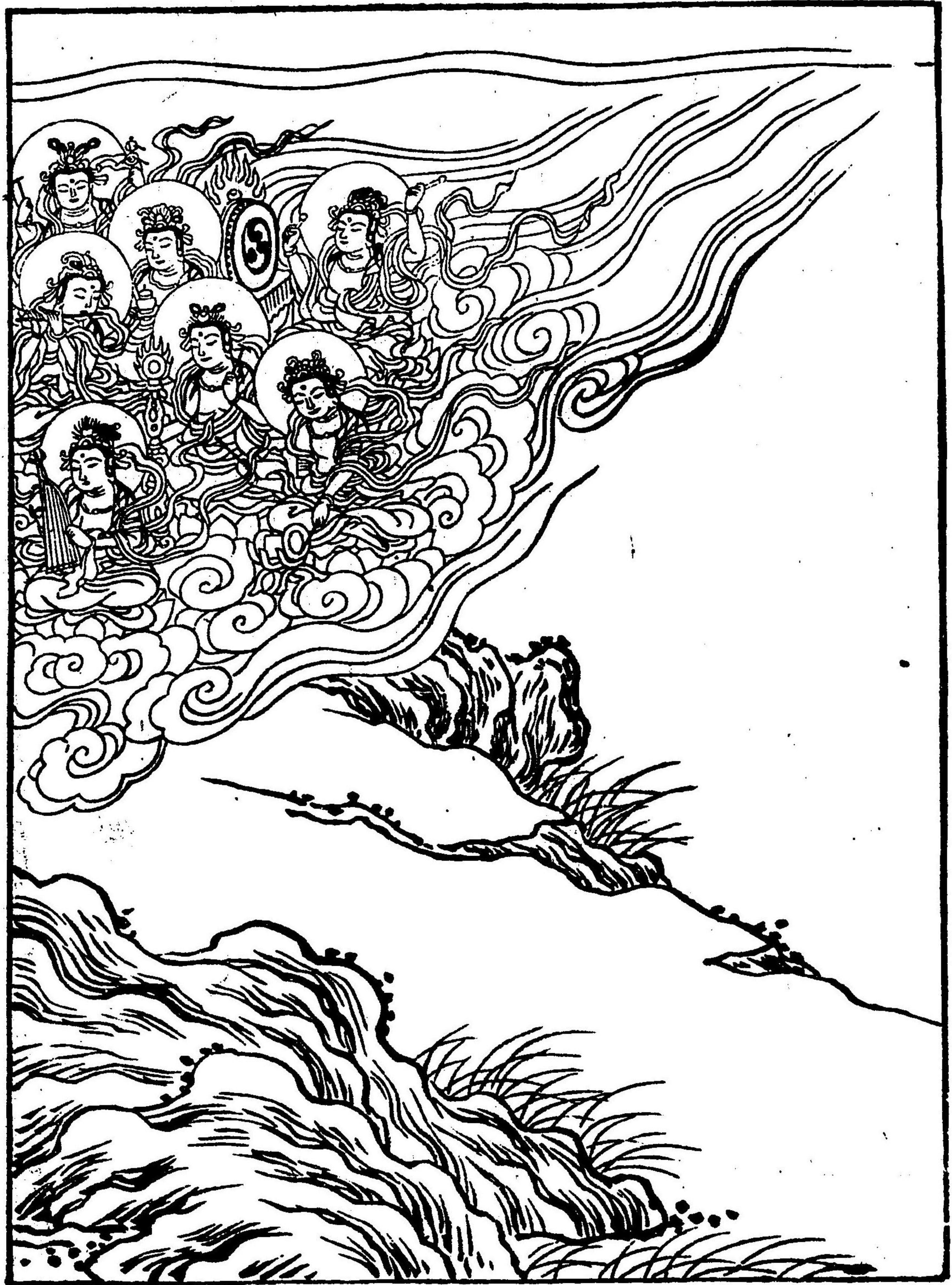
行なり。よしは念佛は妨事すべからず。
中輩の中よ。まゝに起立塔像懸繒然燈
散花燒香等ハ諸行あり。いれといふは
念佛を助成す。その旨は往生要集にんえ
しり。いづく助念方法の中ハ方處供具
等ハいれり。下輩の中にいづく發心あり
や。念佛といふは助正ハ義前よ準として
あり。三よ念佛諸行よ約していづく

三品をわたりていへんをえよ。あつても諸行はこ
もつてもあつても念佛よゆして三品をえよ。
いへんあつても三輩れ中よ通じていへん向
專念無量壽佛とすべし。これすれんら念佛
門よ約してその三品をえよ。あつても
ゆへり往生要集の念佛證據門よいへん。
雙卷經れ三輩れ業淺深あつてもいへん。
あつても通じていへん一向專念無量壽佛と

いへん。諸師もこれよ。諸行門よ約して三品
をえよ。いへん。これ三輩の中よ通じて
これ菩提心等の諸行あり。これすれんら
諸行よ約していへん。これ三品をえよ。あつても
いへん。ゆへり往生要集の諸行往生門
いへん。雙卷經の三輩とす。これいへん。あ
つてもいへん。あつてもいへん。三義不同あり。こ
いへん。いへん。いへん。一向念佛れたあつても

何ぞ壽經の三輩れ中よりの念佛といひ。
觀經の九品よりの上中二品よ念佛を説
け下品より上中二品まで念佛を説け
答ていしくこれに二義あり。一は問端より
よぎしく。雙卷の三輩と觀經の九品と
開合の異あり。二はをて知る。九品
れ中よこれ念佛あり。三はかんが知こと
を得たる。三輩の中よこれ念佛あり。九

品の中何ぞ念佛なりんや。かゝるは今の往生
要集よ。三問念佛れ行ハ九品れ中において
一はこれの品の攝ぞや。答ていしく。説ハ
し行はは理上に當れ。二はこれの
これ勝劣にきいて。九品はつはば一
は家に經よ。三は所の九品れ行業のこれ
一端は。二は。三は無量なり。四は。五は
うり。六は。七は念佛よ。八は九品に通じ。九は



ま。二よ。の。觀。經。れ。さ。ら。う。ぞ。う。め。に。い。ひ。あ。く。

定散れ行を説て。あま孫く衆機一遠。

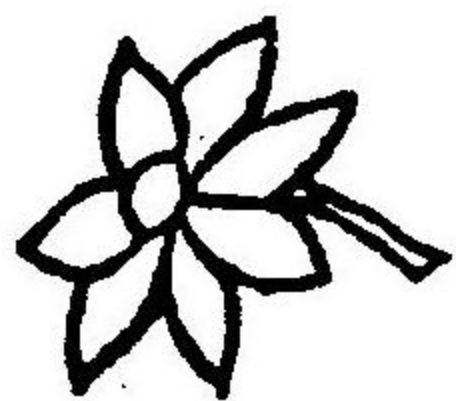
後に定散二善は廢して念佛れ一行。

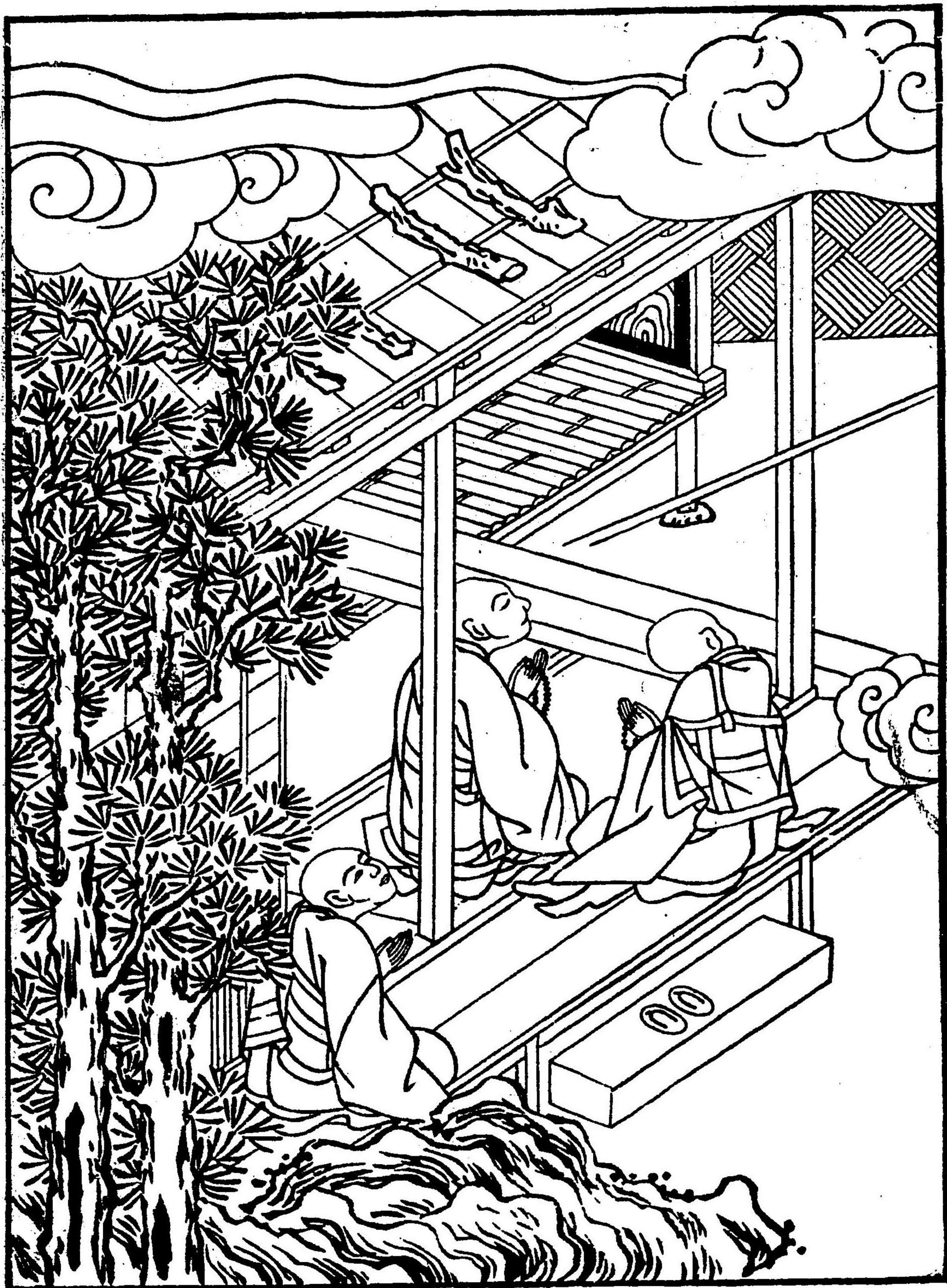
後すじ所謂汝好持是語等の文を我な

りぞれ義下に具よ乃始るるぞうとく。

ゆへよ知ぬ九品の行。ぞうく念佛よりあ家

し後。





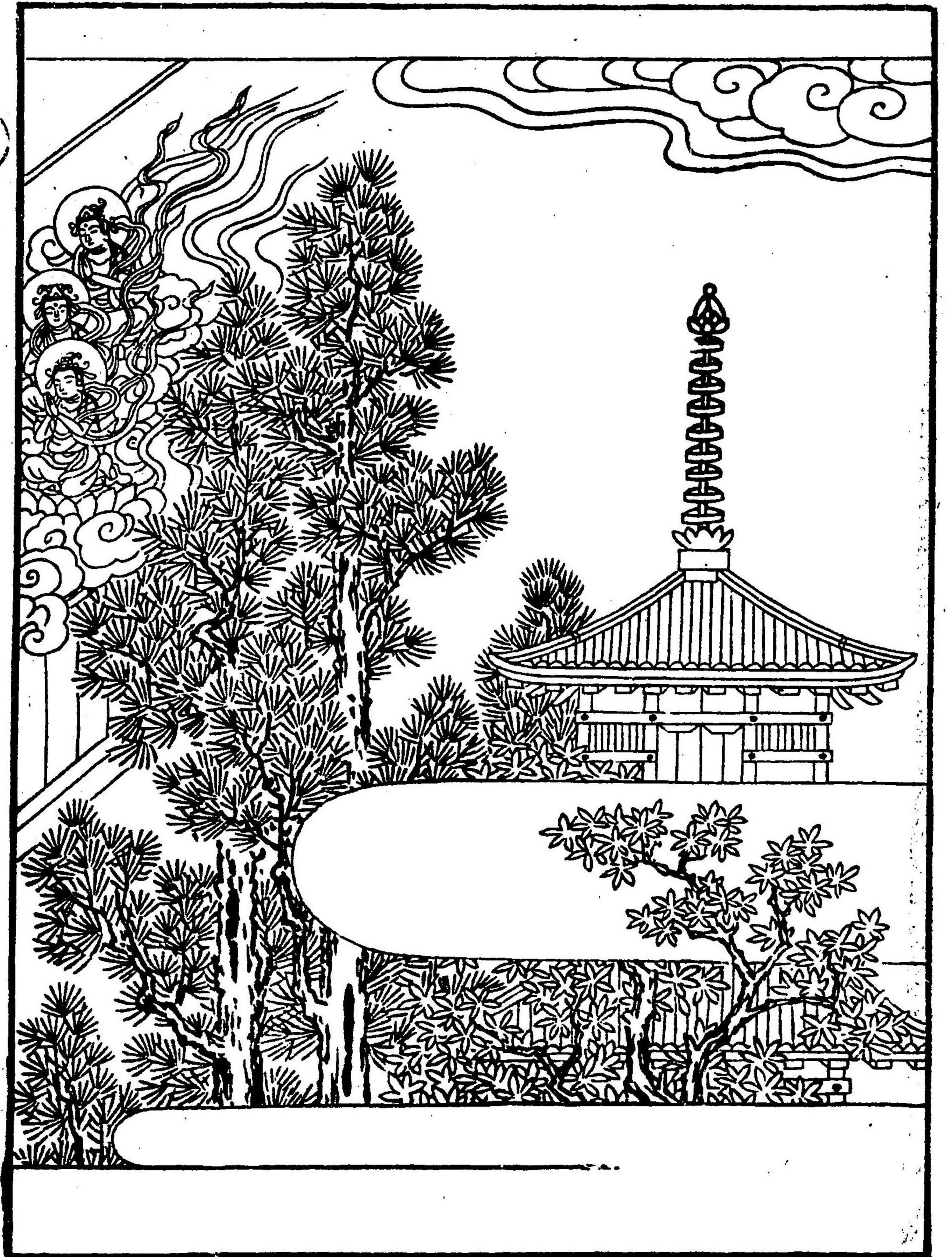
佛龕

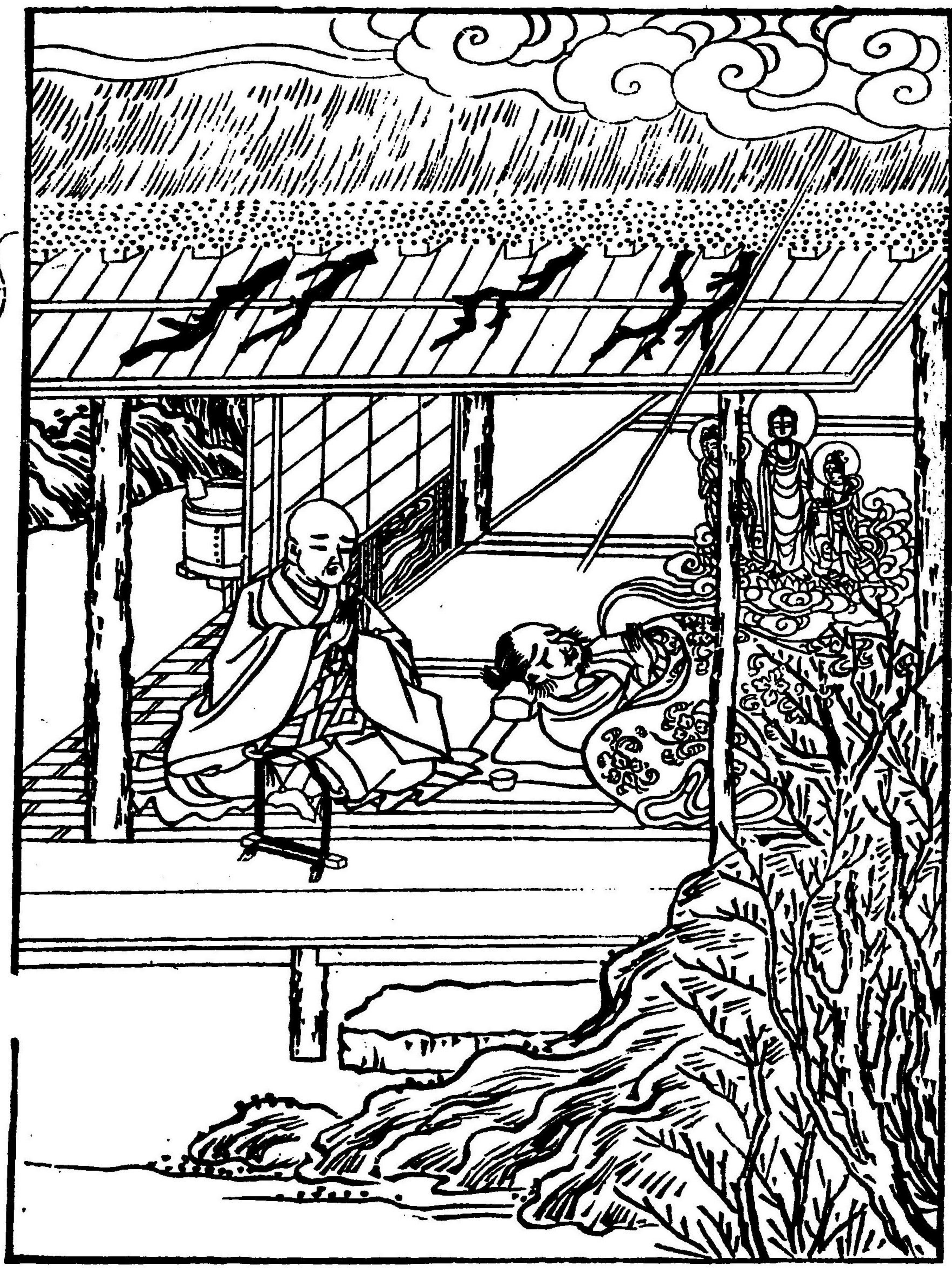




五

五

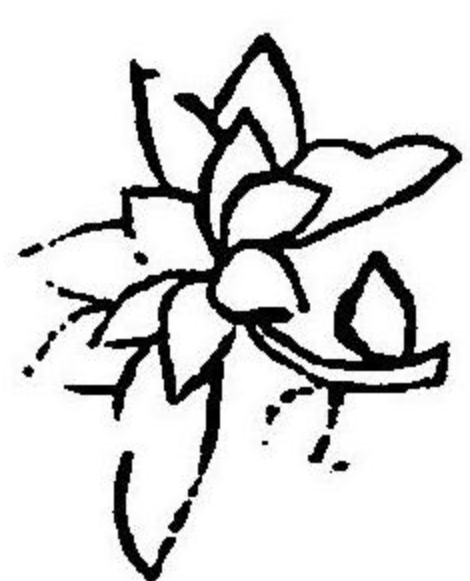
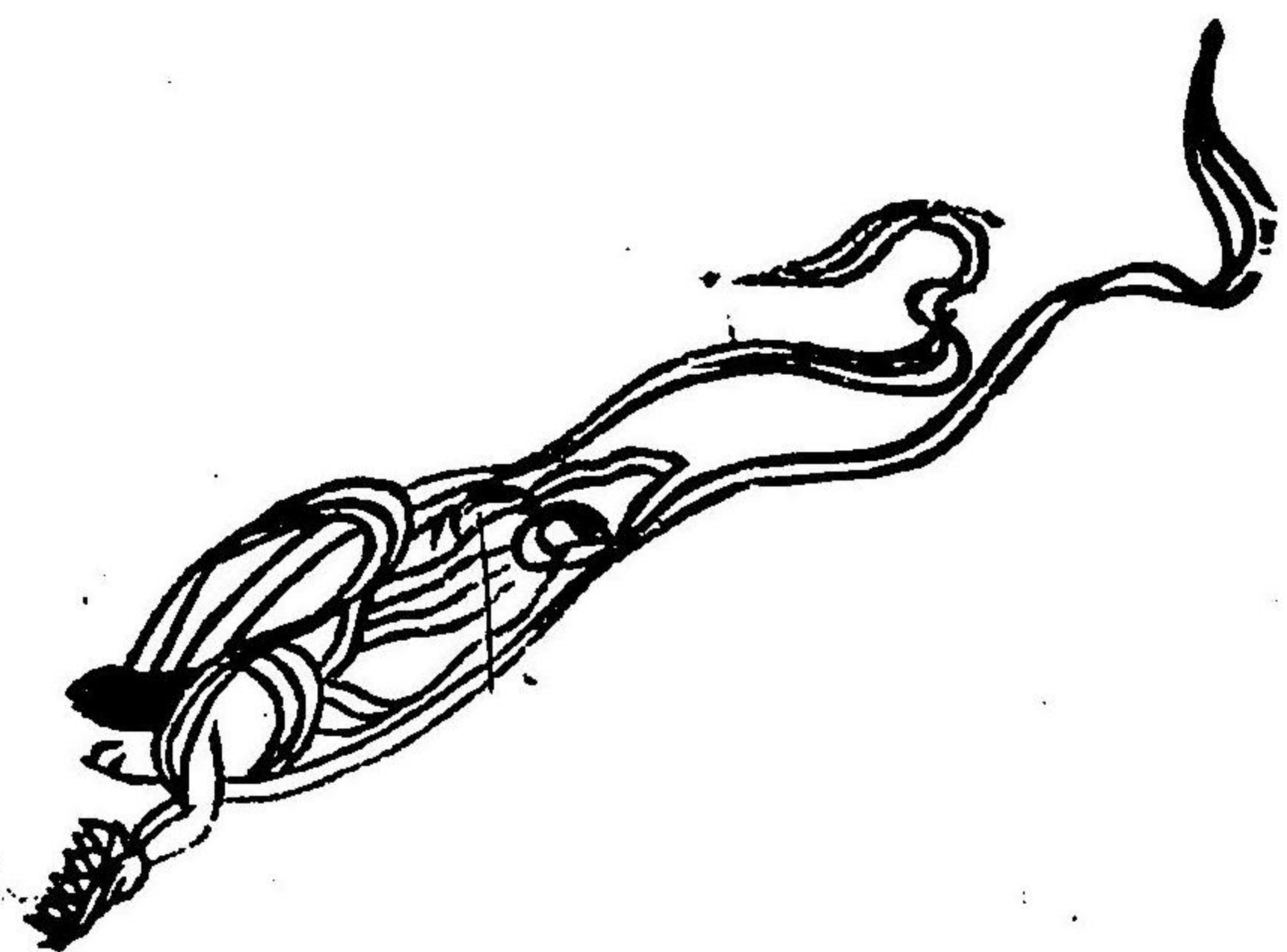
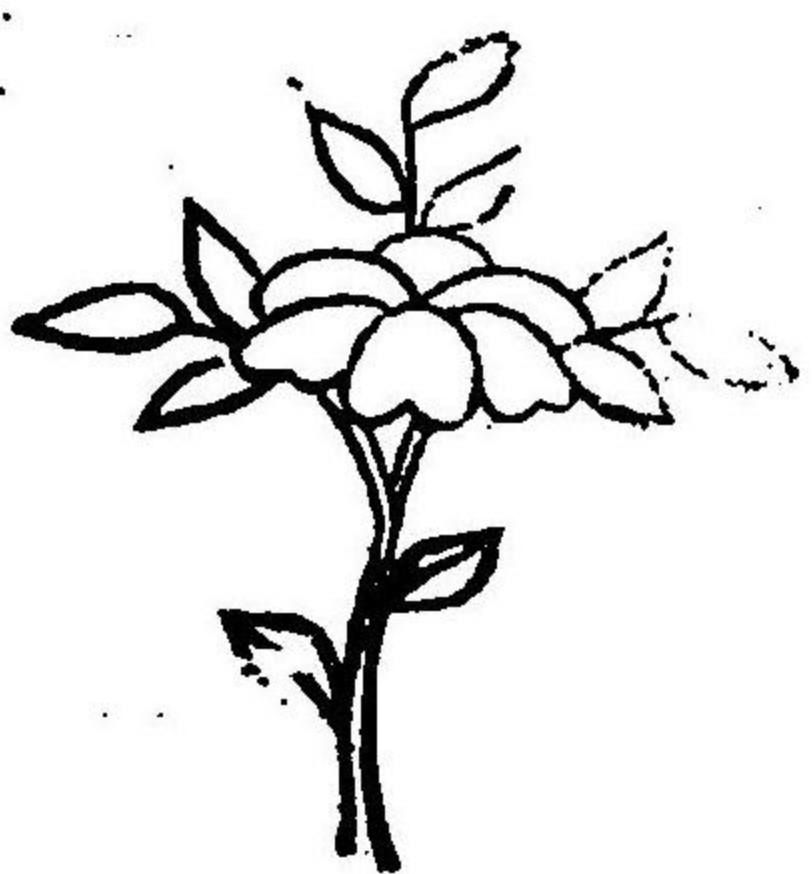




○念佛利益の文



無量壽經に下よいく佛^{ぶつ}称^{ねん}勅^{ぼつ}り語^ごたま
 しく。さきうれ佛の名号を聞し候^うこと
 ありて。歡喜^{くわんぎ}踊躍^{うぶやく}して乃至^{乃至}念^{ねん}せん當^{たう}り
 知^しあり。これ入^いの大利を得^えり。すれは
 此無上^{しよじやう}功德を具^ぐす。と。
 善導の礼讚^{らいさん}よいく。さきこの阿^あ彌^み陀^た佛^{ぶつ}名号
 を聞しを得^えし。ありて。歡喜^{くわんぎ}して一^{いつ}念^{ねん}を



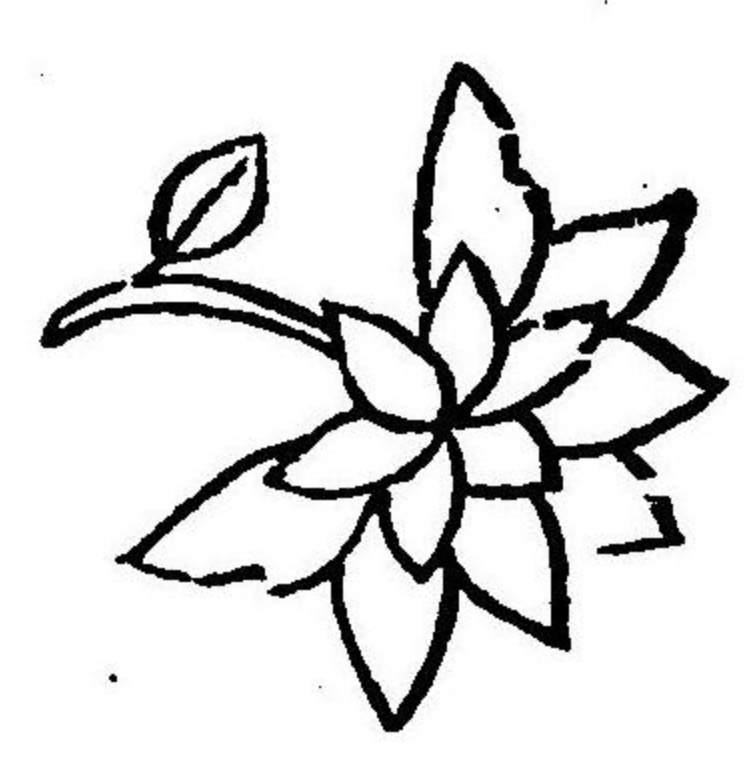
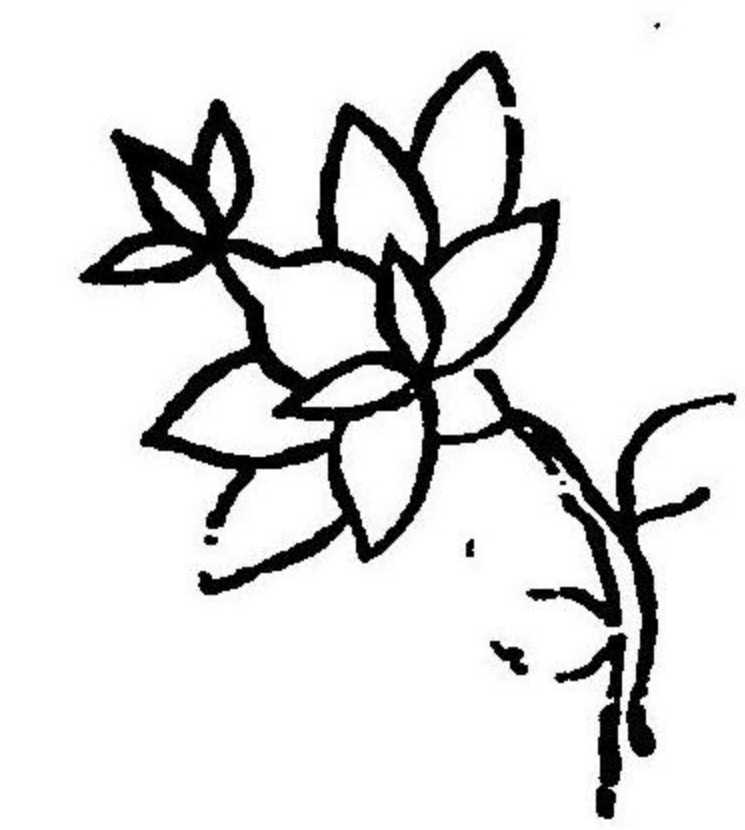
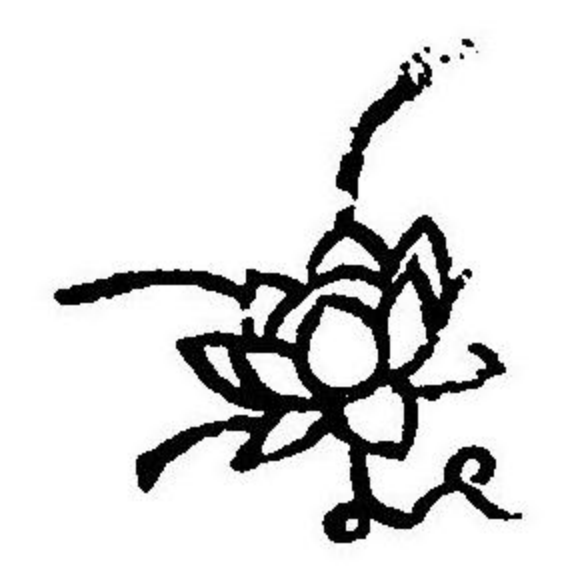
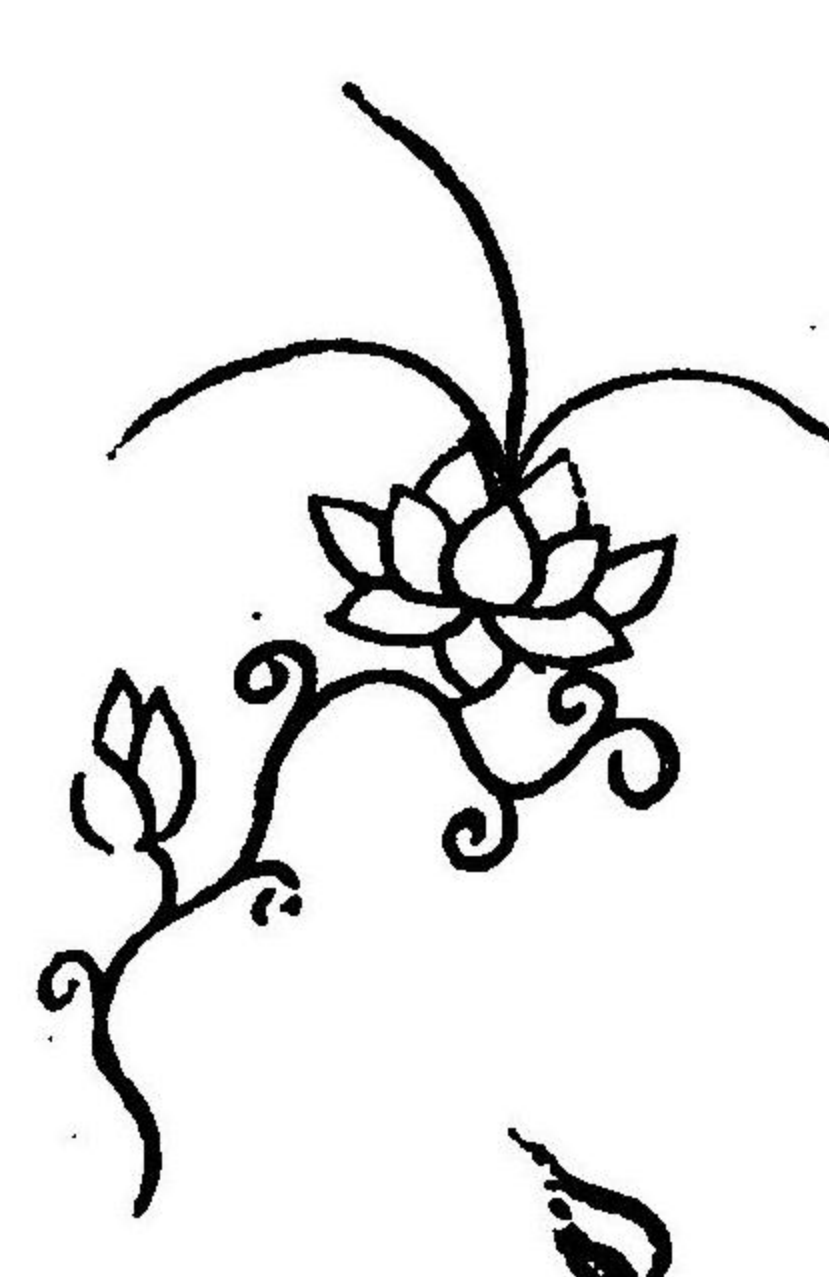
て。三輩はを別せば。これより二意あり。一は
ハ觀念の浅深は随ひて。さうしてこれに
別し。二よりハ念佛の多少を以て。さうして
まを別と。浅深と。上のほうのほうを
一説乃て行く行で。理とくに當りて
さきなり。決り多しと。下輩の文は中よ
とて。十念あり。一念れ數あり。上中の兩
輩。いさより準し。してさうして増し。

觀念法門より。日別より一萬遍乃佛を念
じ。まことあり。時より。淨むれ。莊
嚴の事を礼讚と。大に精進は。て
らひ。二萬六萬十萬得もの。
三萬以上。上品上生れ人あり。は。知あり。
三萬以上。上品上生れ業。三萬以上。
上品上生れ業。三萬以上。念數
の多少より。品位はを別する事。

此明らも一いふまじくは一念といふこと上
れ念佛の願成就れ中よ。いふ所乃一念を下
輩れなうに明と所の一念をば指たり。
願成就れ文の中よ。一念といふこといへども。
いふ切徳大利を説け。又下輩の文れ中
よ。一念といふこといふも。いふ切徳大利をさ
ど。これ一念よりいりて説く大利と。歎
いふ上は。いふは。いふ。いふ上

一念を指しやを。いふ大利と。是小利と。對
す。い言たり。いことい。い。菩提心等れ
諸行をばもて。小利と。乃至一念をばも
志。い大利とす。い。又無上切徳とい。い
有上に對す。い言たり。餘行をい。有上
い。念佛をい。無上い。い。い。一念
ばもて。い無上と。當に知。十念を
もて。十の無上と。又百念をばもて。百の無

よき一又千念をよみて千は無上の徳なり
後このおとく展轉して少あり多あり
いりて念佛恒沙なるが無上功德もま
恒沙なるあり。このごとく知る。あつた
とあり。とて。たかく。往生を願求せんの人
何ぞ無上大利の念佛を廢して。あるて有
と小利乃。餘行を修せんや。







山崎

山崎

